

令和6年 **10**月暮らしのお手入れ

目次

- (1) 🏠 キッチンシンク下、どう使う？ 仕切って水回り用品収納
- (2) 🏠 カーテンの洗濯、自宅でできる？ フック外し洗濯ネットで
- (3) 🏠 収納グッズの失敗しない選び方

🏠 10月の住まいのお手入れ - 家の環境 湿気が気になる

(1) 🏠 キッチンシンク下、どう使う？ 仕切って水回り用品収納

*シンク下の収納はかつて観音開きタイプが定番でしたが、最近は引き出しタイプが主流。

*排水管が通るシンク下には湿気や臭いがこもりやすくなります。

*洗い物でお湯を使うと、熱気と湿気が伝わりカビが生える場合も。

*液だれがあればゴキブリなどを呼び寄せてしまう可能性も。

*まぞ中身をすべて出して掃除。

*カビや雑菌が気になる場合は、アルコールで拭き掃除をすると効果的。

*掃除の後はしばらく引き出しや扉を開け放し、しっかり乾燥。

*収納する際には、除湿剤や防虫・抗菌シートなどを活用。

*ものは使う場所の近くに収納するのが鉄則。

*シンク下には、水回りのものを入れます。

*コンロ下の収納には、鍋やフライパンなど火に関わるものを入れます。

☆キッチンシンク下活用のポイント

●水回りのものを入れる

*シンク下にはザルやボウル、洗剤、スポンジなど水仕事に使う道具を入れる。

*乾物や紙類、家電製品など湿気に弱いものは適さない。

●開かずの扉にしない

*毎日使う道具を入れれば頻繁に開閉するので、湿気や臭いがこもらない。

*使用頻度が低い道具と混ぜて収納しない。

●シンクに汚れをためない

*生ごみやぬめりから雑菌が繁殖し、排水口の隙間から悪臭が伝わる。

*生ごみは日々処分し、シンクや排水口もこまめに掃除する。

排水口、重曹とクエン酸で掃除

- *生ごみや排水口のゴミ受けに溜まった食べかすは、ためずに捨てるのが基本。
 - *シンク内は洗剤とお湯、柔らかいスポンジで毎日洗います。
 - *仕上げに水分をふき取ります。
 - *排水口とその奥に付いた黒カビやぬめりは、重曹とクエン酸を使い泡で浮かして落とします。
 - *熱湯は排水管を变形させる恐れがあります。
- (2024年9月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) カーテンの洗濯、自宅でできる？

フック外し洗濯ネットで

- *カーテンには厚手の生地を使ったドレープカーテンと、光や風を通す薄手のレースカーテンの2種類があります。
 - *レースカーテンは一日中閉めっぱなしにすることが多いため、窓を開けているときに雨に当たったり、外気との寒暖差で発生する結露で濡れたりして汚れがつきやすくなります。
 - *レースなら1年に1回、ドレープなら2年に1回を目安に洗います。
- #### 定期的にはほこり落として
- *汚れが定着するのを防ぐためには、定期的にブラシや掃除機をかけ、ほこりを落としておきます。
 - *掃除機は吸引モードを「弱」にし、上から下へゆっくりと。
 - *ドレープカーテンを毎日開け閉めすることも大切。
 - *閉め切っているとほこりや湿気がたまり、汚れやカビの原因に。
- ☆カーテンを洗う際のポイント

●洗濯表示を確認

- *「家庭での洗濯禁止」マークがついていたらクリーニング店へ。
- *メーカーによるメンテナンス方法が併せて記載されていることもある。

●カーテンフックは外す

- *つけたままだと洗濯中にカーテンを傷つける。
- *縫い付けられている場合は、レールに引っ掛けるツメの部分のみを外す。

●洗濯ネットに入れる

- *シワや傷みを防ぐため、洗濯ネットは必須。
- *大型の洗濯ネットはホームセンターなどで購入できる。

(2024年9月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 収納グッズの失敗しない選び方

サイズや重さ、機能性を確認

*自宅の収納家具に収まっているものをいったんすべて取り出し、使用頻度や愛着の有無などでグループ分けをします。

*結果、収納グッズの購入が不要となることもあります。

*収納グッズはよく使うものに、より取り出しやすい定位置を与えるための道具。

*収納グッズの購入前に置きたい場所の幅・奥行き・高さを測定。

*クローゼットや押入内の収納では、奥行きの長さに対して 3 cmの余裕を持たせておくと開閉しやすくなります。

*収納したい荷物の量は時とともに変動するので、衣装ケースやカラーボックスなどを量に応じて組み合わせて使うのがおすすめ。

*物を取り出すまでに必要な動作の数を「アクション数」と呼び、アクション数が多くなると出し入れが煩雑になり、ものの出しっぱなしにつながります。

*細かいものの収納にはジッパー付袋が便利。

(2024年9月21日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

10月の住まいのお手入れ - 家の環境

湿気が気になる



☆診断の手順

*窓枠・ガラス・壁に結露がないかチェックします。

①結露が発見された部屋の換気扇や換気口が適切に機能しているか確認します。

②空気中に水分を発散する水槽や観葉植物などが置かれていないか確認します。

③室内の湿気は、外部の気候と生活で排出される水分の影響があります。

☆対処方法

●換気量が不足している場合

*換気口や給気口などが閉まっていたり詰まっていたりすると、必要な換気量が確保できず室内の湿度が高くなります。

*換気口が開いていても湿気を感じる場合は、建築士に相談します。

●室内の個々の部屋に温度差がある場合

*部屋と部屋間の温度差がある場合、暖かい部屋と寒い部屋が交わる所で結露を起し湿度が高くなります。

*部屋に換気扇があれば回し、扉などを開けて換気をします。

*建物全体の温度差を少なくする必要があります。

●窓が結露する場合

*部屋の外と内で温度差があると、室内の窓枠やガラスに結露が起こる場合があります。

*結露は室内の温度が一定の水準を超えた時に起こる現象です。

*窓が結露した時は、室内の換気を行って室内外の温度差を少なくします。

*二重窓やペアガラスなどの断熱性の高い窓に替えることで結露を防ぐ効果が高まります。

●湿気の多い地方の場合

*湿度の高い地方では室外の湿度が室内より高く、逆に外気を取り入れると室内の湿度が高くなる場合があります。

*家屋の気密性を高め、外部の湿気が室内に入り込まないようにする必要があります。

●原因がわからない場合

*床下に水がたまり、その水分が蒸発して室内の湿度を高くしている場合があります。

*壁内の断熱材に雨水などが侵入して、室内の湿度を高めているといった事例も。

*目に見えないところに不具合がある可能性もあります。

*できるだけ早く建築士か施工業者に連絡を取ります。

(参考：NPO法人家づくり援護会「わが家の診断&対処法」)

